

第3期四谷地区協議会会議録

分科会名	第1分科会	開催回	第1回
開催日	平成22年4月20日(火)		
出席者	区民 12名	職員	出張所職員2名
主な協議 と決定に ついて	テーマ別活動報告		
	観光まちづくりについて		

1、テーマ別活動報告 他

- 玉川上水
 - ・通水式式典（4月22日）参加委員を決定した。
- 地域バス
 - 代表者会議等未定の状況。
 - 四谷を識（し）る勉強会について
 - 検討中 景観の変移等をテーマに計画中

2、観光まちづくりを考える（協議）

講師提案事項

ガイド実行委員会の組織作りの手伝いを目指す計画のアドバイスを重点におき、協議会委員の考え方のすり合わせをしていく。

新東京都担当職員の紹介

- 赤村係長（継続） ・ 依光主任（新担当） ・ 観光アドバイザー制度担当 橋本
- アドバイザー派遣時間（20時間）
- 平成21年度アドバイザー派遣報告書について
- 各自持ち帰り確認

観光まちづくりプランについて

信頼あるガイド制度の方針（講師提案）

- ・課題を協議しながら、組織の規則作りを検討していく議論の投げかけをさせていただきたい。
- ・ポイントを整理して委員に協議してもらい、今年の後半には募集を目指せるよう計画を講師による協議進行を提案したい。

主な課題（ポイント）・・・・・・・・講師作成レジュメ 別紙参照

対象条件、年齢

- ・・・・・・・・郷土愛、生きがい、地域への関心を軸にどのような人を募集していくのか

教育・・・・・・・・機関をどうするのか 内容

教材の作成

取り決め事項の作成

意欲の確認（郷土誌研究など）

資質の審査判断

（ガイド）技術格差の配慮

交流 活動拠点 待機場所：観光案内所の設置（事務所を持つのか）

受付箇所 = ビューローの依頼 依頼のリミット

有償 or 無償 ボランティアとするのか 実費とするのか・・・考え方の整理

チップ 心づけ 組織が寄付金としてもらうのか

客層のしぼり 旅行会社団体をどのように受入れるのか否か

業務の割り当て = 誰がするのか 熱心で気軽にできる方をお願いするのか

切磋琢磨していただき ガイドの指名を受け付けるのか

箱物施設の案内はどうするのか（館との折衝・有料施設見学の際ガイド分の支払い）

飲食店の案内・・・公平か商店街との関係 組織の名前

新宿区との業務提携

意見交換

（今回の会議は意見交換を主とした内容となりましたので、概要を記載します。）

A 委員：先ず、そのようなこと（観光ガイド）を自分達ができるのかあるいは、やらないのかあるいは、誰かにしてもらうのかを考えることは重要。皆で最終の目標を決定していく議論をしていくことが大切だと思う。

自分の体験・・・身内だけなら多少失敗しても許してもらえるが、一般向けでは通じない。勉強が必要。歴史ガイドに登録したがむずかしいと感じた。中途半端はできないのでガイドはやめようと思った。

先生：（ガイドは）地区協議会の委員がすることではないと思う。

自分の得意分野を掘り下げ、制度設計をしていくことを推進していけばよいのではないか。

リーダー：前回協議会では自分たちではできないであろうと、意見が出され実行委員組織の立上げが話された。立ち上げるところまで今年度推進していきたい。

A 委員：確かにマニュアル（制度設計）は、どのような組織にするにしても必要。そのような組織を作る手法を学ぶことは必要であると考えますが・・・。

リーダー：今までの議論で、外部の方にお入りいただくことが必要と感じたので「しくみ作り」をどのようにしていくかを皆で話し合うことにしたわけです。

所長：第1分科会では、四谷学、お宝の掘り起こしを発信し歴史文化の掘り起こしを検討してきた。そのような積み重ねをツールとしたガイド制度は有意義ではないでしょうか。また、ガイドなしでも地図を広げまち歩きができるようなことも視野に入れてもよいのかと思う。（わくわくマップの充実）

B 委員：そのような意味でも四谷の町おこしガイド制度が必要と感じる。ぜひ、制度を立上げたい。

事務局：新宿区の推進する観光ビジョンの説明が今討議されている内容の支援につながる

のではないのでしょうか。

リーダー：支援体制を知ることは、必要であると思う。

先生：行政の支援はサービスの担い手をする組織と補間関係ができ活動が活性化できます。

A 委員：そのような説明を聴いた後、自分達の姿勢をはっきり決めていけばよいのではないかと。

C 委員：23区で観光ガイドの制度を立ち上げている団体はどのくらいありますか？

東京都職員：20から30位あると把握しています。

リーダー：ガイド組織を構築するにしてもどこまですればよいのか・・・皆で考えていきたい。

D 委員：第一分科会がビジョンを決定していき、まち歩きガイド＝スキルある団体が担うことがキーポイント。協議会がガイドを養成することは無理だと思う。歴史ガイドのエキスパート（専門家）組織ではないので。

協議会はまちづくりを協議し、それを受けた実行委員会が実働組織として活動することで地域住民による「四谷の観光」が確立するのではないかと。

どのような方向性にするのかを協議し実働組織の構築を講師アドバイスに従い意見交換していけばよいのではないかと。

E 委員：四谷のまちの今あるポイント（文化・歴史等）をつなぐことが大切 もう少しポルテージをあげていくためのどのようにしたらいいかの話し合いも希望する。

A 委員：課題点を意見交換していく中で、外から見たのではわからない（地域が知る）・・・ガイドの資料作りをしてもいいのではいか あまり活動を重くしないで、負担にならないよう軽くしてはどうですか。2年3年を目標に今年には四谷の輪切りのように・・・コースをいくつか考えるだけでもよいのではないかと・・・

D 委員：問題はそのような（コースを考える）ことではなく、今まで時間をかけて皆の意見がまとまりつつあり、実行委員会組織をつくらないと到達できないと感じている段階にきている。それをどのような組織にするかを議論したい。コースはエキスパート的な組織が考えていける部分。協議会は根本的な総括を協議する場だと思う。分業し任せていかないと協議会組織が担えることとは思えない。

A 委員：とにかく、今はそれぞれの意見をたくさん出しあい意思の確認が必要だと考える。

F 委員：D委員の意見に賛成です。意見交換は重ねてきた。

先生：おっしゃるように、細かいところ（コースやガイド内容）はここで考えていくのはむずかしい。実行委員会とリンクした活動の中、議論を深めてはいかがでしょうか？

リーダー：観光まちづくりの意義はシンプルなものだと思う。（意見交換しても）同じ場所に戻ってきてしまう問題定義では確かに無駄な時間となってしまう。

先生：哲学・・・つまり有料？無料・・・などを決めて制度化するのは実行委員会が考えていく部分だと思います。

リーダー：協議会がしっかりメインコンセプトを決定していきたいと考える。

D 委員：NPO団体との協働は体験上むずかしいと感じたことがある。NPO 団体のようにコンセプトと行動力（推進力）が強い団体と連携する時には、協議会がしっかりビジョンを決定していかないと困難が生じる恐れがある。第一分科会（協議会）で実行委員会をどのように組織するかを、よく検討していく必要があると思う。

G 委員：実行委員会の人材が心配。実行委員を募集しても集まるのか・・・

D 委員：新しい人が協議会に入ってくる窓口があることが大切だと思う。協議会委員でない方に活動の場の提供ができることが実行委員会方式の利点である。四谷には人材が豊富にある。(募集コンセプトを)しっかりした募集をすれば集まると考える。

リーダー：自分たちが動くには限界がある。

G 委員：自分たちの次の世代（40代以下）にも協力いただきたい・・・

D 委員：上の世代（50代以上）にもぜひ、協力いただきたい。

リーダー：つまり、募集内容（実行委員会組織概要）をはっきりさせないといけないわけで、皆さんもそこは、理解できたと思う。何をどこから決めるのかを講師にアドバイスをいただきながら考えたい。

H 委員：神楽坂の団体でも募集の仕方は同じようなわけではないか？

リーダー：神楽坂とは一致しない。NPOであり、若者が集まり強くなった組織。

A 委員：神楽坂は狭い。理科大がらみであることも特色。一方四谷は広い・・・

確かに、今のメンバーではむずかしい。そして四谷地域の人材は豊富であると思う。そのような方にお集まりいただき組織する。

E 委員：応募側から見て概要がわかりづらい実行委員を募集して集めるより 興味を持って親しんでいただけるネーミングの勉強会のような養成講座を開催し、集まった方で自然に実行委員会を立ち上げてはどうか。一気に募集するより、段階を経て推進してはどうか。つまり人材の発掘をしてはどうか。

D 委員：それも、単発講座でなく、講座を積み上げていくことが大切ではないかと感じます。

E 委員：とにかく敷居を低くして、気軽に集まっていただきたい。

C 委員：よい、考えだと思えます。講座を開催し興味ある人を集めることが第1段階として考えて固めていけば、そこで課題も見えてくるのではないか。

G 委員：それでも四谷高齢者クラブの方々（60、70、80歳）に参加していただくのはむずかしいと思えますが・・・

D 委員：高齢者クラブに参加されていない高齢者の方もいらっしゃいます。そのような方に呼びかけて活動していただくことにも意義があると思う。

A 委員：四谷を愛する人は多い。手助けしてくださる方はいらっしゃると思う。

先生：四谷外の人でも活動に参加していいのでしょうか？

委員一同：それはいいと思う

A 委員：それにしてもガイドは大変。挫折してしまった・・・

I 委員：(ジャンルを決めて)ガイドを楽にしてあげてはいかがか 御苑のガイドは御苑に詳しい方に任せるのがよい。知らないことをガイドできるわけがない。見えるものには、専門的な知識のあるガイドが上手に説明できる。見えないもの(地域の歴史・体験も含め)地域がガイドすることに意義があるのではないかと感じる。ここ(協議会)では地域活性化=地域に滞留してもらうことをいかにして工夫するかを話し合うことも大切だと思う。

D 委員：ユーチューブの利用も視野にいれるとよいと思う。

J 委員：(ガイド実行委員会の立上げを)如何にして知らしめるのか。(観光まちづくりの)目的を具現化するためにはどうしたらよいのか。

とにかく、そのような整理が必要ではないか。

まず、ビジョンを作る。そして整理をしていくかが必要と感じる

課題整理をしていくとおのずと出来上がってくる。(講師の提案に沿って整理が必要と思う。)

A 委員：急いでやる必要はない・・・ゆっくりやったほうがいいのではないか。

リーダー：数年でビジョンを決定していきたい。

J 委員：けれども、同じ意見交換を繰り返している状況は問題。時間がもったいない。こうして先生にお越しいただいているのに、同じ討議を繰り返している。そもそもの話しにいつも戻る・・・そこに何時間もかけるより先生にある程度お任せしながら、すすめないと解決に至らない。

D 委員：講座を開き、人の関心を集める具体案に話しをすすめたい。

B 委員：勉強会と関連しながら、講座を進めては・・・

C 委員：学芸委員の講師を招き講座を検討してもよいのではないか。

F 委員：東京都職員の方にもお越しいただいているので何か意見をお話いただきたい。

東京都職員：アドバイザー派遣制度が制定され、2年目継続する例は四谷が初めてです。

私どもが直接意見を申しあげる立場では無いのですが、このような(地域住民団体)の会議に出席させていただき、非常に勉強になります。今後とも来会させていただき学ばせていただきたいと考えます。

リーダー：ガイドビジョンに関して「四谷らしさ」はツールだと思う。まだまだ話し合いができてない・・・たたき台を出していきたい。

C 委員：とにかく実働していただく実行委員会が必要。基本柱立ては協議会。時間をかけてあいまいに進めるより具体的にどのようにするのか決めていくべき時だと思う。

B 委員：次回も先生にいらしていただきながら、意見も伺いながら決めていきたい。

D 委員：今、協議会で意見が出ないのは 実際(ガイドを)やってないからではないか。実働部隊(実行委員会)で議論すべきことをここで確定しようとしているのではないか。自分たちで実際に、アクションしてみてもわかることがある。自らが動かないと意見を出せないことを話しているから、結論が出ない。そこを切り分けて考えて、実働する委員会でもアドバイスを受ける余地(時間)を残すことが必要ではないか。

E 委員：とにかく、四谷に人を呼ぶためには四谷を自ら知ることが大切だと感じます。
 A 委員：(協議会のビジョン・実講委員会の立上げを)同時進行に推進してはどうか。
 F 委員：観光課を呼び新宿区のビジョンも聞いて参考にすればよいのではないかと。

以上

【主な意見・提案】

↑ ビジョン(協議会)と実働(実行委員会)を切り分けて、各々の負担を分担し
 フットワークを軽くする。

そのためには・・・

協議会では観光まちづくりビジョンと、観光ガイド実行委員会の立ち上げに向かい、
 賛同者・協力者を募る目的とした勉強会を企画する。(気軽に受講できる内容を心がける)

実行委員会組織(講座参加者、活動賛同者)で講師作成レジュメを参考に、アドバイ
 スしてもらう。

(補足) 実行委員をひろく募集し実働を担っていただく。細かな取り決めは実働され
 る実行委員の中で話し合っていたいただき、協議会は広い視野によるビジョンを打ち出し連
 携する。

【次回の検討事項及び協議内容案】

新宿区の観光ビジョンの確認

次回会議冒頭(5月18日)、レガス観光課職員より新宿区の考える観光ビューロー計
 画について説明を受ける。(事務局より依頼：説明10分程度後、質疑応答時間を設け
 る)

上記の【主な意見・提案】の確認

(提案事項が了承されれば)

- ・実行委員組織を担っていただく人材発掘のための講座開催について
- ・勉強会との連携(するのか、否か)

今後のアドバイザー来会依頼の計画案について

意見)本年度のアドバイス時間(20時間)時間数が限られているので決定事項を確
 認しながら有意義な話し合いを持つ。

意見)実行委員会組織でもアドバイスを必要とすると思われるので、時間数を意識し
 た計画を作成すべき。

その他：T 委員作成案が提示された。(未検討)

次回日程	<ul style="list-style-type: none"> ・第1分科会 5月18日(火)18時30分～四谷特別出張所会議室 事務局よりお願い 配布済みの昨年度の報告書、講師作成資料、会議録は必ずお持ちください。 ・お宝さがし実行委員会 6月1日(火)18時30分～四谷特別出張所会議室
------	---